



# 予備試験制度についての アンケート調査結果分析

## 2013年日弁連司法試験シンポジウム

1



### 調査の趣旨

- これまでの予備試験の結果ないし動向を見ると、現状は制度趣旨と乖離する方向に向かいつつあるものと見られる。そこで、予備試験制度の趣旨と乖離した状況がどの程度生じているのかを検証するため、全国の法科大学院における学生の方の受験動向を調査した。

#### 予備試験制度の趣旨

- ・ 経済的事情や既に実社会で十分な経験を積んでいるなどの理由により法科大学院を経由しない者にも法曹資格取得のための適切な途を確保すべき

2



## 調査対象・回答数

---

- 調査対象  
全法科大学院の法科大学院の2年次生  
(既修1年・未修2年配当の必修科目を受講している学生)
- 全体回答数 1, 139件  
※ 経歴についての記載は任意とされている。

3



## 報告のながれ

---

- 予備試験受験時の属性・受験回数
- 予備試験受験理由(1)～(3)
- 予備試験前後におけるLSの授業への影響
- LSでの経験をどのように活かせるか

4

## 経歴について

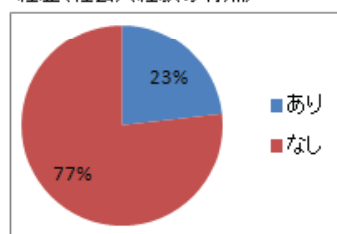
- ・ 社会人経験の有無、未修者か既修者かによって問2以下の各設問の回答に有意な差はなかった。
- ・ 社会人経験があると回答をした者は、1139件の全回答者中195人であり、そのうち10年以上経験している者が64人、5年以上～10年未満の者と合わせると103人となり、長期間の社会人経験者が一定程度法科大学院に入学している。

5

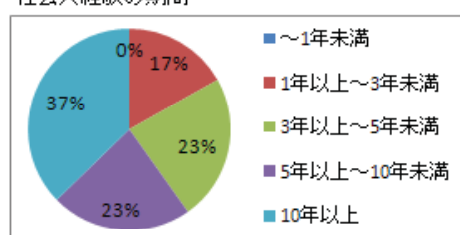
## 経歴について

経歴について	
■ 社会人経験の有無	
1 あり	195
2 なし	645
～1年未満	
1年以上～3年未満	29
3年以上～5年未満	40
5年以上～10年未満	39
10年以上	64
■ 属性	
1 未修者	398
2 既修者	563

経歴(社会人経験の有無)



社会人経験の期間



6

## 予備試験受験経験・回数

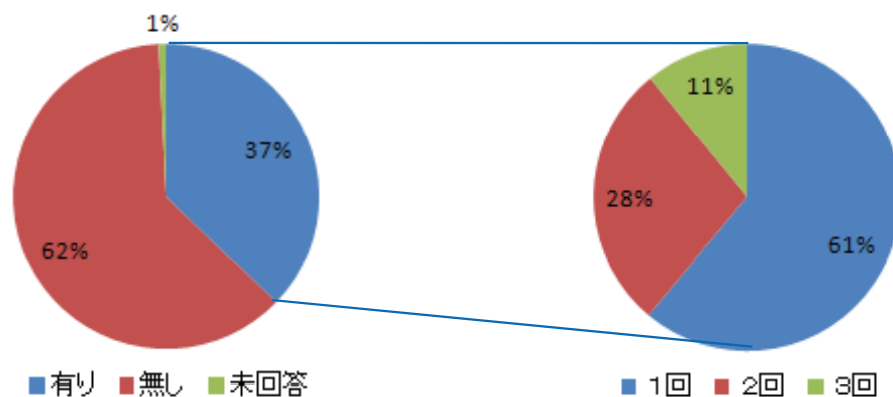
- 全回答者1139件中、予備試験受験経験有りとは回答した者は424人であり、約37%の者が予備試験を受験した経験があるという結果になっている。
- 法科大学院2年生時点で、予備試験を3回受けている者が、424人中46人と、10%程度いる。また、受験経験有りとした者のうち約4人に1人は2回受験している。

7

## 予備試験受験経験・回数

予備試験受験経験	
有り	424
無し	706
未回答	9

予備試験受験回数	
1回	259
2回	119
3回	46



8

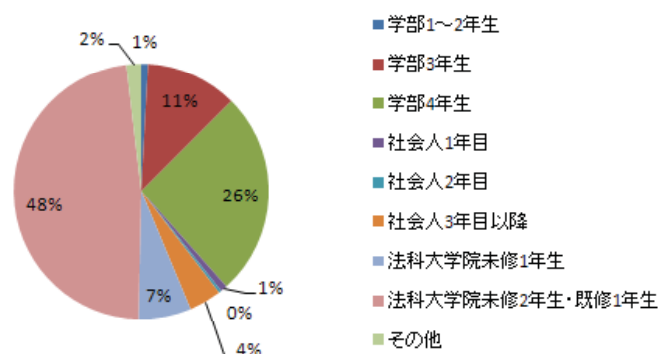
## 予備試験受験時の属性

- 学部時代の受験傾向としては、学部3年生(11%)、4年生の際に受験している者(26%)が多く。
- 法科大学院時代の受験傾向としては、法科大学院未修2年生・既修1年生の際(48%)に受験をしている者が多い。

9

## 予備試験受験時の属性

① 学部1～2年生	5
② 学部3年生	68
③ 学部4年生	151
④ 社会人1年目	5
⑤ 社会人2年目	2
⑥ 社会人3年目以降	24
⑦ 法科大学院未修1年生	39
⑧ 法科大学院未修2年生・既修1年生	279
⑨ その他	11



10

## 予備試験受験理由(1)

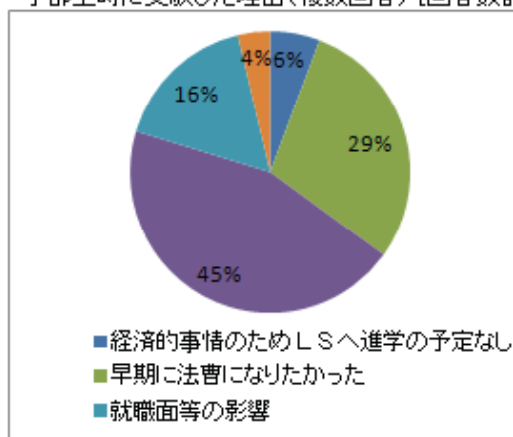
「学部1～4年生で予備試験を受験した理由」

- 最も大きな理由として、「実力を試したかった」という理由が60%と圧倒的に多い。「早期に法曹になりたかった」は23%と2番目に多い。「就職面等、法曹になった後に良い影響があると考えて受験した」という回答が8%あった。「経済的事情により法科大学院に進学する予定がなかった」という回答は6%と最も少なかった。

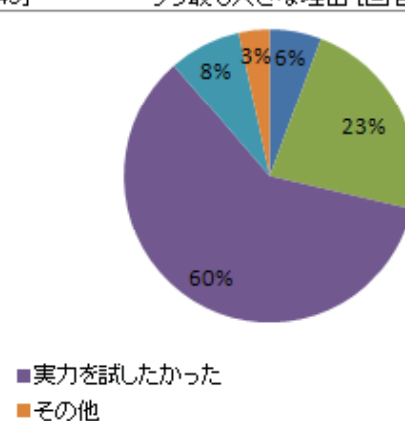
11

## 予備試験受験理由(1)

学部生時に受験した理由(複数回答) [回答数計:349]



うち最も大きな理由 [回答数計:175]



## 予備試験受験理由(2)

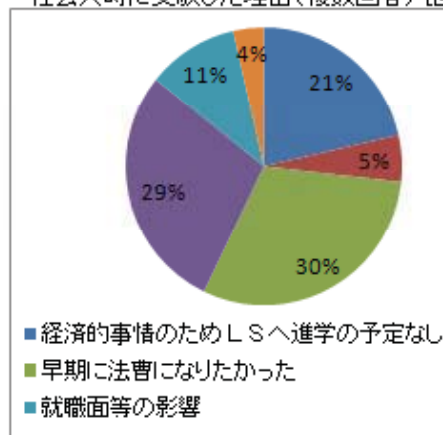
### 「社会人時に予備試験を受験した理由」

- ・ 最も大きな理由として、「早期に法曹になりたかった」が43%、「経済的事情により法科大学院に進学する予定がなかった」が29%、「実力を試したかった」が18%となっている。
- ・ 学部時代と比較して、経済的事情から受験をしている者、早期に法曹になりたいという者が大きく増加しており、実力試しが大幅に減少している。

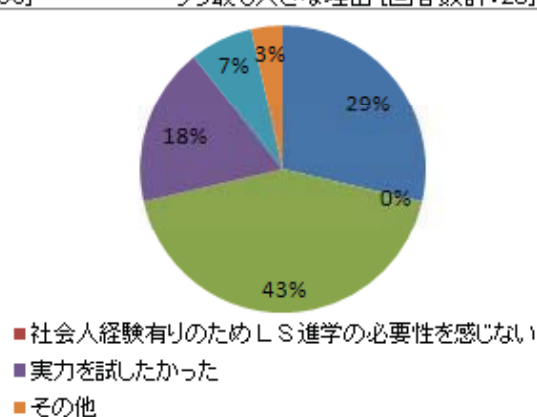
13

## 予備試験受験理由(2)

社会人時に受験した理由(複数回答) [回答数計:56]



うち最も大きな理由 [回答数計:28]



14

## 予備試験受験理由(3)

### 「法科大学院在籍時に予備試験を受験した理由」

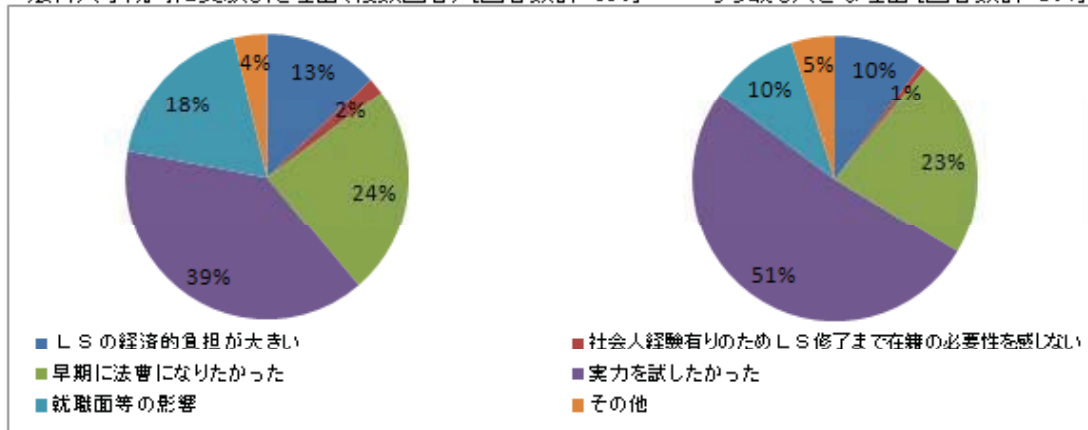
- 最も大きな理由について、学部時代と同様、「実力を試したかった」という理由が51%と最も多く、「早期に法曹になりたかった」が23%と2番目に多く、この二つの理由でかなりの割合が占められている。
- 「法科大学院における経済的負担が大きい」については学部時が6%、法科大学院時が10%と、後者の方が一定程度増えているが、割合としては1割程度に留まっている。
- 「就職面等、法曹になった後に良い影響があると考えて受験した」という回答も10%と一定程度いる。

15

## 予備試験受験理由(3)

法科大学院時に受験した理由(複数回答) [回答数計:690]

うち最も大きな理由 [回答数計:301]





## 予備試験のための予備校利用

- 「予備試験のために予備校を利用した」という回答が168人、「利用していない」という回答が254人であった。

予備試験のための予備校利用	
利用した	168
利用していない	254

17

## 予備試験に合格した経験の有無

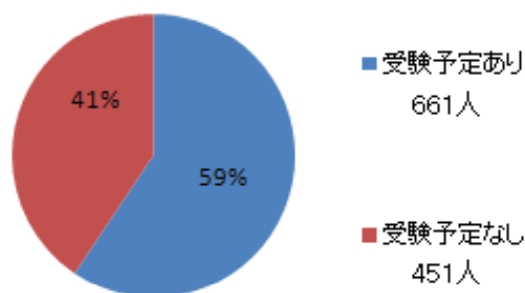
- 法科大学院入学前に予備試験に合格し、その後法科大学院に入学した者は3人、法科大学院在籍中に予備試験に合格した者は11人が法科大学院に残っている(本年の合格であり、これから退学をするか検討をするという者も1人いた)。

法科大学院に入学した、残った理由の自由記載欄としては、大半が法科大学院での教育が有益という回答であった。法曹になった後の横のつながりが法科大学院で得られるという回答も見られた。

18

## 今後の予備試験受験予定について

- 1139人の回答者のうち、受験予定ありという回答が661人、受験予定なしという回答が451人となっている。



19

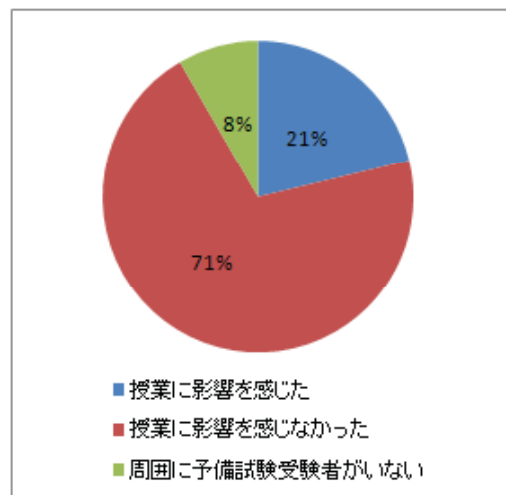
## 予備試験および司法試験合格後の進路

- 今後予備試験を受験する予定があると回答した者のうち、予備試験および司法試験に合格した後の進路として、現在在籍中の法科大学院を修了するという回答が426人、退学し司法修習へ進むという回答が150人となっている。
- アンケート結果からは合格後法科大学院に残る者が多いようにも思えるが、アンケート対象者が既修1年・未修2年であることから、次年度に予備試験を受験して合格をした場合には、司法試験を受験するのは卒業後であるため、退学する実益はないという点が影響しているものと考えられる(選択理由記載欄にその旨の回答が多かった)。

20

## LS授業期間中における、 予備試験前後期間の授業への影響

- ・ 授業に影響を感じた人が21%、影響を感じなかった人が71%と、一定程度の法科大学院生が影響を感じている。
- ・ 影響の具体的内容については、欠席者の増加、予習が疎かになるという回答が多かった。



21

## 法科大学院への進学理由

- ・ 法科大学院で学修をしたかったという回答が773人、予備試験に合格できなかったためという回答が103人であった。
- ・ その他記載欄では、司法試験の受験資格を取得するためというものが最も多く、その他、制度上法科大学院に進むのが法曹を目指す一般的なルールのため、法科大学院で司法試験に合格できる力をつけるため、予備試験の合格者数が少ないためなどの回答があった。

22

67

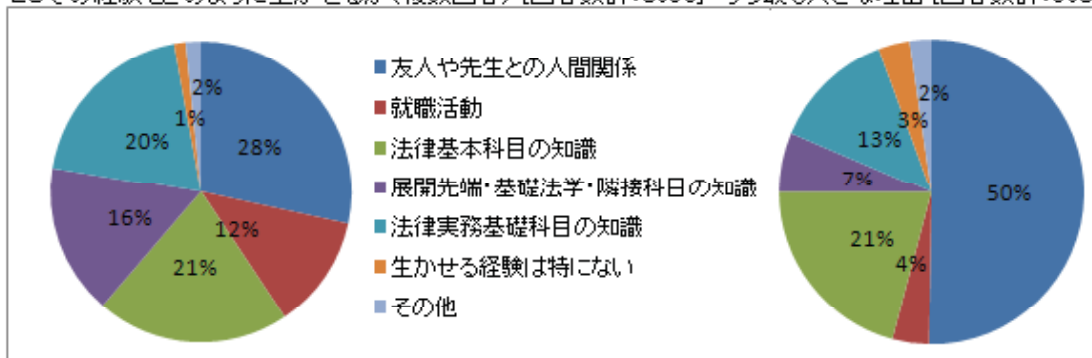
## 法曹になった後にLSでの経験をどのように生かせるか

- 「友人や先生との人間関係」が生かせるという回答が28%と最も多く、次いで「法律基本科目の知識」(21%)、「法律実務基礎科目の知識」(20%)、「展開先端・基礎法学・隣接科目の知識」(16%)、「就職活動」(12%)と続いている。
- 「法曹になった後に生かせる経験は特に無い」と答えた者は1%であった。

23

## LSでの経験をどのように生かせるか

LSでの経験をどのように生かせるか(複数回答) [回答数計:3056] うち最も大きな理由 [回答数計:903]





## その他の意見

---

- 法科大学院制度に肯定的な意見としては、予備試験制度によって、法科大学院の存在意義がなくなるという意見、受験資格を制限すべきという意見、予備試験制度は廃止すべきという意見等が見られた。
- 法科大学院制度に否定的な意見としては、法科大学院制度が不要であるという意見、経済的事情や時間がかかりすぎることから、予備試験制度は必要であるという意見等が見られた。